○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時０５分）

◇　渡　辺　文　彦 君

○議長（稲葉昭宏君）　一般質問を続けます。

通告順位４番、渡辺文彦君。

（２番　渡辺文彦君　登壇）

○２番（渡辺文彦君）　通告に従いまして、壇上より一般質問をさせていただきます。

私の質問は２点に及びます。１点目は、総合戦略及び人口ビジョンと平成 28 年度当初予算との関連についてお伺いいたします。

２点目は、町長、副町長の退任後の町政の運営についてお尋ねしたいと思っております。

町長の町政に対する方向性は予算の執行をもってなされると対することができます。その予算の執行に対して、議会はその内容を十分精査し、それに対する承認を与えることになるわけであります。その予算の内容が本当に町民にとって今後望ましいものであるかどうか、私はやっぱり検討しなければならないかと思っております。

町長は、昨年広報まつざきにおいて、平成 28 年度当初予算の編成に向けて、従来の枠にとらわれない大胆な予算を組むということをおっしゃっています。

それが実際どのような形でこの予算の中に反映されているかを確かめてみたいかと思うわけであります。ここの細かな経費等の動きに関しましては、この後ゆっくり予算の質疑がございますので、そこでやっていきたいと思いますので、予算の大枠の方向性についてだけお尋ねしたいかと思います。

２点目についてなんですけれども、２点目、これから地方創生に対して本格的に町が動き出すわけですけれども、そういう中で、副町長が地方創生関係に大きな力を果たしてきたと町長は述べられております。そういう副町長が今後退任された後、町の運営がどのような形でされていくのか、この辺を確認してみたいかと思います。

私の壇上からの質問は以上でございます。

○町長（齋藤文彦君）　渡辺文彦議員の質問にお答えします。

１．総合戦略及び人口ビジョンと平成 28 年度当初予算との関連について。

「地方版総合戦略及び人口ビジョンは、平成 28 年２月中に作成されることになっている。町長は平成 28 年度当初予算を町再生の初年度と位置づけ、従来の枠にとらわれることなく重点化し、配分すると述べられている。その内容について、①雇用の創出及び地方経済の振興策について、②人口ビジョンの内容、またその取り組みについての２点について、H28 年度当初予算の中で、どのような形で反映されているのかを問う」についてでございます。

まち・ひと・しごと創生にあたり国では、各地方公共団体に対して国の長期ビジョンや総合

戦略を勘案し、地方人口ビジョンとこれを踏まえた５カ年の目標や施策の基本的方向や具体的な施策をまとめた地方版総合戦略の策定を求め、町ではこれまで人口ビジョンと総合戦略の策定を進めてまいりました。

人口ビジョンは、松崎町における人口の現状を分析し、町が中長期的に目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、総合戦略において効果的な施策を立案する上で重要な基礎資料となるものです。

町の人口の将来展望としては、国が 2060 年に出生率 2.07、人口１億人を目指して人口減少抑制対策を講じていることを考慮すると、2060 年に 6275 人を確保維持していく必要があります。

この推計結果をもとに、人口ビジョンでは当面社会移動による人口減少対策に重点を置き、転出抑制（定住促進)、転入促進（移住促進)、立地特性を活かした居住を誘導する地域整備、稼ぐ力と雇用力のバランスのとれた産業振興を通して、多様な世代が暮らすまちづくりを推進することにより、人口の循環基盤を備えたまちづくりを行うこととしております。

また総合戦略では、環境・文化の循環、ひと・経済の循環、子育て・教育の循環、健康長寿・安心社会の循環の４つの戦略のもとに施策を進めてまいります。

雇用の創出及び地方経済の振興策は、ひと・経済の循環の中で地場産業の創成、育成、を図るため地域おこし協力隊とも連携し、基幹産業である桜葉等の生産振興を図ります。また、産業を牽引するモノづくり人材を育成し、起業を促すため、シェアオフィスを活用した起業の場づくりを進めてまいります。

平成 28 年度予算におきましては、耕作放棄地再生支援に 100 万円、青年就農支援に 300 万円の補助や、雇用創出・起業に対する補助 200 万円などのほか、先程の長嶋議員の一般質問でもお答えしましたが、シェアオフィスの整備・活用に 663 万円、商店街ポケットパークの足湯整備に 200 万円など、街中の賑わいづくりのための費用なども予算計上いたしております。

２．副町長退任後の町政の運営について。①「平成 28 年３月をもって副町長が退任されることになっているが、その後の町政運営方針を問う」についてです。

平成 28 年度以降の町政運営ということと思いますが、平成 28 年度の施政方針で申し上げたとおり第５次総合計画の着実な実行と、「松崎町 まち・ひと・しごと総合戦略」に基づく地方創生事業の推進により、自立に向けた魅力あるまちづくりを展開し、産業振興や人口減少対策を実りあるものにしていきたいと考えています。

特に「日本で最も美しい村」登録資源である、なまこ壁、棚田、桜葉の持続性確保に向けた取組や、地域産業の育成、再生、起業に向けた支援を行うほか、通信環境も充実させて賑わいを復活させていきたいと思います。

また、防災力の強化と子育て支援や長寿対策もさらに充実したものとし、総合計画の将来目標である「一人ひとりが主役となり活力とやすらぎのあるまち」の実現を目指してまいります。以上でございます。

○２番（渡辺文彦君）　一問一答でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可します。

○２番（渡辺文彦君）　私は、この地方創生を国から提案した時に、石破地方創生担当大臣は、

地方のやる気に対して交付金を払うんだというようなことをおっしゃっていたと思います。そういう中で、町はそれを少しでも多く獲得するために、その何らかの具体的な施策を打つものと期待して、それに対して町長もおそらく大胆な予算措置をするということをおっしゃったとは思うんですけれども、どうも私が今回配られた予算書を見る限り、大胆・・、それなりに計画はされてはいるんですけれども、ただ、大胆性は感じられないんですけれども、どこが大胆なのか、その辺をちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　非常に難しいところで、実は本当に先ほども議員さんの質問に答えたわけですけれども。本当に総合戦略ができて、それに 28 の予算を付けるというような形になればよかったわけですけれども、本当に総合戦略と・・、はじめに予算ができあがりつつあって、総合戦略ができあがるというようなことで、非常に何といいますかね。ちぐはぐなところがあったように感じています。

しかし、それなりに松崎町らしい予算ではないかなと私は思っています。それで、まち・ひと・しごと総合戦略の事例別に予算を付けてあるわけですけれども、いちいち言うと面倒くさいわけですけれども、環境文化の循環に 3723 万円、ひと・経済の循環に１億 5054 万円、また結婚・出産・子育ての希望の実現に 1547 万 1000 円、また、健康長寿安心社会の循環ということに 4874 万 7000 円、トータル２億 4899 万 5000 円ということになっているわけですけれども、こういうのが先ほど渡辺議員の言うところの答えではないかなと思っています。

○２番（渡辺文彦君）　このあいだの予算の説明会の時に、今回の予算に対して、地方創生の予算は全体で２億 4000 万円くらい措置されているという説明があったかと思うんですけれども、従来からやってきた予算に対して上乗せして２億 4000 万円という話でしたら、今年新規に追加された予算、今までやってきた予算じゃなくて、新たに組み込まれた予算金額はどのくらいに・・。

○議長（稲葉昭宏君）　時間がかかるかな。ちょっとお待ちください。

答弁を後に回しましょうか。それでは質問に行ってください。

○２番（渡辺文彦君）　それでお聞きしたいのは、今までの、従来の対策ではおそらくまずかったんですね、きっと。だから、だんだん、だんだん衰退しているんですよ、おそらく。

だから、ここでなんか・・、それこそ大胆な方向転換がなければ再生できないと私は考えているから、今年本当に取り組まなければならない課題は何なのか、そこに特化したものがなければ、だめなんじゃないかということでお聞きしたわけです。

町長はその、去年のその広報まつざきの中で、職員を去年いろいろな自治体に派遣して、研

修させたわけですよね。その中で、職員の中からもいろんな意見をくみ上げて、予算に反映させたいということをおっしゃっていたわけです。それがどういう形で反映されているのか、その辺をお聞きしたいんですけれども。

○町長（齋藤文彦君）　27 年度は「日本で最も美しい村」連合に全職員を派遣して、いろいろ勉強してこいといってあるわけですけれども、なかなか予算の方に反映しているのが、私の考えではあまりないような感じがします。

ビルドアップ作戦ということで、いろいろ話をして小さいことはありますけれど、なかなか大きい・・、これに向かっておれが行こうというのがないのかなと感じます。

いま提案制度とか、いろいろやっていまして、若い職員に本当にこういう低迷した松崎を活性化するためにどうするかということで、いろいろやっているわけですけれども、なかなかまだ予算のところに出てこないのかなというような気がします。

○議長（稲葉昭宏君）　答弁の方を先にします。

○総務課長（山本秀樹君）　先ほどの、今の２億 4000 万円の中の今回新たに計上したものがどのくらいあるかということで、４つの柱の中でそれぞれ新規事業がありまして、合計しますと１億 3100 万円ほどが新たな新規事業になります。

○２番（渡辺文彦君）　私が、今それを問うたのは、職員の提案がどうなっているかというのを聞いたのは、職員の中に本当にこの町はやばいという状況にある、危機感があるかということをやっぱり確認したいんですね。

いろんな・・、町の中でも、広報まつざきの中で研修の報告をされています。その中にいろんな・・、こんなことを感じたということがあります。それを反映させてくれなければ・・、具体的な形で。何のために研修に行ったかということになると思うんですよ、ぼくは。これが反映されなければ変な言い方ですけれど、慰安旅行に行ってしまったんじゃないですかと言われても仕方がないような気がするんですね。

だから、その辺、もっと町長がおっしゃるように、職員も議会も町民も行政の方もみんなが総意をもって町を何とかするという姿勢を出さなければいけないのに。ただ、この総合計画を見る限り、さっきの議員も指摘したとおり、やっぱりこれは委託された業者が作った作文だなと私は思えるわけですよ。

それに、いま新規にやっている事業を上乗せして、体裁を繕っているというようにしか見えてこないんですね。その辺で、もっともっと本当にやらなきゃならない方向性が甘いんじゃないか、もっとその辺をもっとみんなで議論しなければいけないんじゃないかという意味で、こ

の職員の自発的な意見なりが組み入れられることを期待したわけですけれども、それがなかなか予算の中では出てこないということになると、まだまだ町の再生計画というのは、道半ばだと・・、全然まだスタートラインにも立っていないのかなという感じも受けるわけですね。その辺に対してどうですかね、町長。もっとこう独自の意識高揚というのは・・。

○総務課長（山本秀樹君）　またあと補足は町長の方にしてもらうことにしまして、職員に対しての今の状況というのは、もう予算の査定の時とか普段の会議の時とか、これはもう口をすっぱく状況等は伝えてあり、またそれぞれが奮起することを伝えてきておりますので、その辺の意識は上がってきているのかなと思います。ただ、それが皆さんに伝わるのにそれぞれの職員が大変だ、大変だというのはいいのかどうかということになれば、今の職員の方は、どちらかというと背中に覆いかぶさってきている仕事を歯を食いしばってやっているというような状況だと思います。

ただその中で、今回いろんな意見が出た中で、先ほど１億3000万円と言いましたけれど、事業としては21事業になります。その辺はこの計画を立てる時に、各それぞれの課からも聞き取りを行いまして、そして新たにこういう試みをしてみようというものも含めて入れています。

ただ、28年度にそれが全て入ったかというと、そうではなくて、これは５か年の事業になっていますので、28年度が終わって、29年度以降に予定されている部分はありますので、その辺が今回の予算の計上だけで判断するのはちょっと時期尚早かなと思います。ただ、いずれにしても、その辺の意欲は伝わっていないということは、ちょっと真摯に受け止めまして、いずれにしても各職員が一生懸命仕事をできるような環境と、それから意識の高揚に努めていきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　若い人がいろいろ話をしています。そうすると、松崎の歴史をあまり知らないなということがありまして、いろいろ教えているわけですけれども、いろいろ話し合った中で、予算に数字として表れたものはないと思うんですけれども、それなりに松崎のことを一所懸命考えてくれているというのを痛切に感じます。こんなことを言うと、またあれになりますけれども松崎のその若い人というのは・・、若い人が非常に多いものですから、やっぱりなんと言いますか、仕事に追いまくられて新しいことを考えるとか何とかというのがなかなかできないように感じていますので、そのようなことはちゃんとやっていかなければいかんのかなと思っています。

人数が少ないとか何とか言われますけれども、この人数でやっていかなければいかんわけですから、若い人たちが本当にもうちょっと意見を言って、松崎を活発にするようなことをする

には、やっぱり課長以下が後ろ姿を見せて、ああ、こういうふうにやればいいんだというような姿を見せることだと思いますので、そのようなことを考えながら、やっているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　町の職員はそれなりに一生懸命やっていると私も思っています。だから、それはそれで結構なんですけれども、やっぱり今まで以上の意識をもってもらいたいなという気持ちで、あえて確認をしたわけであります。

先ほどの総合戦略と予算のバランスなんですけれども、予算を組みながら総合戦略も同時に進めてきたから、なかなか予算の中に反映されてこなかった、反映しにくかったということを町長はおっしゃったと思うんですけれども、これは去年６月の段階、ぼくがこの議会に立った時からずっとぼくはこのことを申してきました。総合戦略をどういう形で進めていくのかということをずっと尋ねてきました。その中で、いろんな質疑があったわけですけれども、そういう過程の中でも町はこういう方向を前面に出そうという時間は少なからずあったような・・、あったと思うんですけれども、残念ながら、その資料、町が作った人口ビジョン及び総合戦略は業者の委託がほとんどであって、町の職員なり・・、アンケートはもちろんされていますけれども、十分反映された資料になっていると私は理解できかねます。

そういう意味でちょっと町が本当に・・、先ほどほかの議員もおっしゃっていましたけれど、町長のビジョン、私はこれをやりたいんだというようなビジョンをもって、そこに予算づけをする。そういう方向性があってもよかったのかなと私は思っています。

そういう中で、前の質疑の中で、12 月の議会の時に、町長は三聖苑に対して、三聖苑を松崎の一大拠点にしたいんだというようなことをおっしゃいました。そういうビジョンがあるならば、そこに地域お金なり、人が回る体制を組み込むような組織づくりをしてもよかったんじゃないかと私は思うわけですね。ただ三聖苑を何とかしたいんじゃなくて、三聖苑を具体的にどういう形で地域の活性化にいかせるのか、それを、予算措置なりをもって方向性を示すべきだと私は思っているわけです。その点に対してはいかがですか。

○町長（齋藤文彦君）　先ほどやっぱり定住移住とか、来てください、来てくださいとか何とか言ってもやっぱり基盤整備をして、畑地があって、これだけのことがありますから来てくださいよというようなことをしなければ、なかなか定住移住が進まないというのがあって、地籍調査をやって、それなりの形が少しですけれども形が見えてきて。三聖苑のところも私は、ただ非常に難しいところが、先ほど副町長も言いましたけれども、ＮＰＯの方との関係でなかなか進まないところがございまして、あそこはドッキングさせて、それなりの形の・・、自分では

それなりのことができているわけですけれども、いま予算を付けるというような段階ではございませんので、なかなか予算の中には入っていません。

また、自分の考え、頭の中では、先ほど福本議員から温泉のことをひどく攻撃されたわけですけれども。やっぱりアンテナショップではないけれども、温泉をもうちょっと広めるためには、いろいろ街中を歩いてみて、観光協会の駐車場がありますけれども、あそこの常盤橋のあそこに足湯でも置いて、そうすれば向こう側も見えるし、振り向けば近藤邸が見えるというようなことで、いろいろ考えたわけですけれども、なかなか予算までにいかなかったところがございまして、いまそれを補正でも何でもいいからやりたいなと思っているところでございますけれども。なかなか予算の中に入れることができなかったというようなことは非常に反省しているところですけれども、予算もこれを見ると、それなりの活性化の予算だと思いますので、粛々と進めていきたいなと思います。

○２番（渡辺文彦君）　総合計画及び人口ビジョンというのは、お互い車の両輪みたいなものだと思うんですけれども、今、町から若い人が出ていくということに対して、仕事がない、所得が少ないというようなことがさっきの質疑の中で出ていたと思うんですけれど、質問の中で。やっぱり地域の地域力ということに対して、やっぱり一番問題は雇用の場がないというのが一番課題になっていると思うわけですね。このことはいま言われたことじゃなくて、もうずっとおそらく言われてきたことだったと思うわけです。これに対して何らかの対応をずっと求められてきたはずなんですけれども、未だこれが改善されていない。また今度総合計画の中で、それが若干方向性は出たのかもしれないですけれど、この町の作った総合戦略は５年間、第５次総合計画が 10 年間ですか、34 年まででしたっけ、その期間の中でやるということで、位置づけられているわけですけれども、その総合計画の 34 年・・、あった時に、町に本当に若い人たちが定住できるのか、あるのかということですね、本当に。同時にその移住定住を進める場合、やっぱり都会から来る方はおそらく技術をそんなにもっている方は少ないんじゃないかと思います。どっちかというと、田舎に行ってのんびり自分のマイペースの生活ができればいいんじゃないかなというようなイメージで来られて、あっちに行けばなんか仕事があるんじゃないかというイメージで来られると思うわけですね。そうなった時に、ここに来て仕事もない、所得もないということになれば、ここは、じゃあ、住めないなということになるんじゃないかと思うんですね。

今、若い方たちがここを出て行くのは、やっぱりここで食えないからですよ。それなのに、よそから人を呼び込もうといっても、それはやっぱり話は違うんじゃないかなと、そんなこと

は起こり得ないんじゃないかなというのが私の感想なんです。いかがですか。

○副町長（佐藤　光君）　いま、渡辺議員からお話がございましたのは、雇用の場の創出ということだと理解しました。そういったことも踏まえまして、今回の地方創生戦略の中のひと・経済の循環という中の産業を牽引するものづくり人材の育成ということで、やはりその人材の育成と雇用の場の創出を両輪で進めていく必要があると思います。そういった中で、やはり私は起業だと思います。いわゆる起業の中にも新しく地域の資源を活用して、新しく来られた方が人材として、その資源を活用した新しい、全く新しい起業が一つと、あと、今、町にいろんな第一次産業を中核としたそもそもの地場産業がございます。そういった産業も高齢化で継承がままならないというようなこともあろうかと思いますので、そういったことを引き継ぐ、いわゆる継承的な起業、本人にとっては起業ですけれども、ビジネスとしては、産業としては継承するというような２つのパターンがあるのかなと思います。

ですので、そういった起業人材を育成するべく、いま富士ゼロックスさんと一緒にシェアオフィスの整備を行っているところです。あの整備をすることによって、人ともの、情報をやはり集積するような場所にしていきたいなと思っていますし、合せて松崎の魅力を発信する、情報の収集もするし、発信もするような基地になればいいかなと思っています。

そこはやはり起業するいろんなステージがあるかと思います。地域資源を、あるいは人にマッチングさせて、それをどのようにビジネスに結びつけていくかというふうに、段階的に一つのビジネスが成り立っていくと思いますので、そこを総合的に、あそこの基盤をシェアオフィス「とうふや」で行いまして、あと、それぞれ先ほど町長もご答弁されましたけれども、いくつかの地域に起業のいわゆるブランチオフィスみたいな形で支店を設けまして、それぞれのところにまた新しい拠点を設けて、その４つの地域を・・、松崎は大きく分けて４つあるかと思いますので、その４つの地域で起業が、相互に連携しながら、できないかなというふうなことをこの計画の中で考えておりますし、謳っております。

そういった中で、やはり雇用の場を起業ということを通じて行っていくということが非常に重要かなと思っていますので、そういったものを進めていきたいというところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　そういう・・、今、副町長がおっしゃったように新しい起業みたいなことで、いま資料がどこにあったか探していないんですけれど、ＫＰＩか何かのところで資料が確かあったと思うんですけれども、それは主体は誰になるんですかね、起業する主体は。よそから入って来た人ですか、これは。

○副町長（佐藤　光君）　私のイメージとしては、今、地域おこし協力隊が４名、来年度から６

名になります。たぶんその方たちが起業の先兵だと考えております。そういった方が、一つのビジネスモデルを確立してくだされば、これは３年間という期間に確立してくれれば、それが一つの実績になって、そういう事例がまた紹介されて、また新しい人を呼び込むということになると思います。

それ以外にも、地域おこし協力隊以外にも、民間の方でも立派にこの地域で新しく移住をされてビジネスを展開されている方もいらっしゃいますので、そういった方とも連携をしながら行っていければいいかなと思いますけれども。我われの行政当局として、そういったものを支援するという形では地域おこし協力隊の皆さんというふうになるのかなと思っています。

○２番（渡辺文彦君）　思ったようにうまく循環できれば誠に結構なんですけれども、なかなか現状は厳しいのかなというのが私の今の気持ちなんですけれども。人口ビジョンとの絡みの中でちょっとお伺いしたいんですけれども、町が提案してくれたこの人口ビジョンがございます。それの一番最後のページ 14 ページなんですけれど、そこに 2060 年のモデル、町のモデルが示されているわけですね。2060 年の人口を 6275 にしたいと、そういう計画になっているわけですけれども、町の計画が。

増田さんたちがいった、創生会議でいった数字ですと 2924、約 3400 から 3500 くらいの差が出てくるわけですね。ここまでいかないために早いうちに手を打ちましょうということで、この将来のパターンが計算されているわけですけれども、この図で見ますと、6275 を維持するためには、2030 年くらいまでのところでこの数字を維持しなければならないということになると思います。

そうすると、この 2030 年、今から考えると 15 年くらいの時間しかないわけですね。この時間の中で約 800 人位の人口減少が起きているわけです。今の創生会議の数字からみると。800 人という数字、これを 15 年で割ると何人くらいになるんでしょうかね。60 人位になるんですか。今、人口は自然減で 100 人近く亡くなって、自然増で・・、出生の方が５名あるかないか、毎年 100 名位ずつ亡くなっているから、総体としてみれば 150 人位の人がおそらく・・、1500 人ですか、15 年間で 1500 人位の人口減がおきるわけですね、おそらく。

そうすると、この 30 年・・、町の計画では 6200 ですから・・、5400 に陥る前に、その数字、落ちた分を・・、毎年落ちていく数字の分は社会増で埋めなければならないわけですけれども、社会増を埋める数字というのは、今このことを考えているのは松崎だけではないわけですね。この伊豆半島全ての地域、広く言えば日本中が同じことを考えて、それこそ都会からの若者、まだ働ける生産労働者、労働力になる方を招き入れようとやっきになっていろんな施策を打っ

ているわけです。

そういう中で、町が思うように、この数字を維持できるのかということですよね。この 2030 年までである程度の人口減少を抑制できなければ、あと 15 年ですね。そのあいだに抑制できなければ、おそらくずるずると沈む可能性が高いんですね、おそらく。

そうなると、この 15 年間にいろんな施策を打たなければいけないんですけれども、いま言ったように、これは私たちの町だけじゃなくて、全ての町が取り組んでいる課題ですから、そんな思ったように人が来てくれるのか。また来ても本当にその人たちが町のために働いてもらえるのかどうか、下手をすると高齢者ばっかりいっぱい来て高齢化がさらに上がるという事態も考えられないわけではないですよね。そう考えると、この人口ビジョンのとらえ方というのは、社会増だけでとらえているもので、結構無理があるんですね、おそらく。これが人口減のてっとり早い対策だから、その社会増を目指すのが早いわけです。自然増はなかなかね、結婚してくれなければ子どもは生まれないし、結婚しても子どもを何人産むかはその人たちの勝手に任されるわけですから、自然増を望むというのは大変なんですけれども。根本的にはやっぱり自然増に対する取り組みがないと、この対策は後手に回るというか不十分になるんじゃないかなと思うわけです。この対策は、今、先ほども社会増を中心に組まれていると確か言われたと思うんですけれども、自然増に対する取り組み、補助金とか何とかがあって、それが出生に埋め流すということを言われていますけれども、それで十分、今の対策で十分効果が出るとお考えでしょうか。その辺をお聞きします。

○企画観光課長（山本　公君）　議員会の勉強会の時に資料をお示しいたしまして、国が１億人を目指していくということの中で、それを考慮していく中で、松崎町としていくと 6275 というただいまの渡辺議員の方からあった数字を目指していかなければならないかなということでございます。

転入ばかりというわけにはやはりいかないというのは当然のことでございまして、いかに子どもを産む・・、まず結婚してもらって、子どもを産んで、その子どもたちを育てていかなければなりませんので、そういう施策も当然必要となるということで、４つの柱、循環で・・、このあいだご説明をさせていただいたかと思います。子育て教育の循環ということ、その中で先ほど町長からもありましたけれども、社会全体で子どもを育てていくような関係を作る、あるいは子どもを産んでいただいて育てていくというようなことも当然この戦略の中には盛り込んであるところでございますので、これまで子育て支援ということの中でやっている施策もありますけれども、それ以外のものについても当然全部が全部入っているわけではないですけれ

ども、それらの部分についても取り組んでいくということになっています。

○総務課長（山本秀樹君）　ここの人口ビジョンを作りながら、こういうことを言うのはなにかと思いますけれども、将来的な推計等の数字自体が、そこの数字の設定が本当に重たいファクターになるのかと言えば、そうではないと思います。

いずれにしても、社会増を望めば、自然増も望むと、ただ、先ほど議員がおっしゃられたとおり、自然増を望むのであれば、若い人たちが産んでもらわなければ困るよと・・、ただ、３人４人産めと言われても今の時代は無理でしょうから、そういう若い世代が多く町に居ついてくれるようにならなければ実際に増にはならない。居つくためには、生業として稼げる場所がなければいけないということになるわけです。

この 10 ページのロジックツリーにあるこういう項目自体は、ミクロ的にみて、そういう居つくためには稼げるところがなければならない。就業の場がなければならない。そうすると、就業の場はどうしたらできてくるんだろうと言えば、町全体にやっぱり人の流れ、外貨を落としてくれるという状況にならなければ、そういう状況は生まれてこないと思います。

ですから、大きな視野で見れば、町に賑わいをつくり出して、そういうビジネスチャンスを作るであるとか、そういう流動客数を多くしてたくさんお金を落としてもらう、地元で作ったものが地元で消費できるというような状況になれば、いろいろな面で働き場も出てくるだろうと、じゃあ、それを起こすためにはということで、このロジックツリーのところに、一番下に書いてある小さい項目でいろんな事業をやっていくという形になっているわけです。

松崎町には実際 40 万人弱の入込み客みたいな話がありますが、伊豆半島全体を見れば、100 万人とか、その辺の人間は入って来ているわけで、目の前の道路は通っているわけです。ですから、その中で半分止まってくれれば 50 万、７割止まれば 70 万という人間が止まってくれるわけですから、止まってというか、立ち寄ってくれるわけですから、そういうような状況をいかに作るかと、じゃあ、松崎の強みはなんだろうかといえば、まち歩きができるところがいいという、いろんなそういう結果も出ていますので、止まって歩いてもらって、お金を落としてもらう。

そういうところの人の流れができれば、外から見ている事業者であっても、松崎町はちょっと面白いから、何かやってみようとか、店を出してみようとか、そういう形になれば、そこでまた雇用の場も生まれてくるということで、大きな目的は賑わい創出、その中のミクロ的にいろんな事業をやっていくというのがこの計画なので、その辺の結果はなかなかすぐには出ないと思いますけれども、いずれにしても今までやってきた企業誘致であるとか、そういうものも

なかなか一生懸命やっても実りがないという状況の中で、やっぱりこれからは、ここに活路を見い出そうということで作った計画ですので、ご理解の方をお願いしたいと思います。

○２番（渡辺文彦君）　いま課長がおっしゃったように、方向性としてはぼくは間違っているとは思わないです、これは。ただ、方向性は間違っていないんだけれども、今のこの少ない予算の中でその方向性が本当に確立できるかどうかということなんですね。

先ほど企画観光課長がおっしゃいましたけれど、国の将来の人口に合わせて町はこういうふうに考えたとおっしゃいました。それが根本的にぼくは間違っているんだと思います。というのは、地方創生は地方の事情に合って・・、地方の独自性をもってその政策を展開すべきだと私は考えています。そのために地域間に・・、がんばるところには補助金を付けるよ、がんばらないところには付けないよと言ったんだと思います。もしそうじゃないならば、今の地方交付税と全く同じわけです。同じような人口・・、この国の政策に合うように各町が人口配分を考えて、それに合った政策をするとするならば、それに対してお金をもらえばいいわけです、要は。全く今までの交付税と同じじゃないですか。何のための地方創生の交付金なのか、その辺の差が出てこない・・、その差をつけるために町は独自の事業を展開すべきだったんですよ、本来。このままではいけないんですよ。ほかと違う、この町が絶対やるんだというものを作らなければいけないはずなんですよ。

ただ、この人口ビジョンにしてもいろんないま言われたビジョンも基本的には大きな流れの中でこういうふうにやっていけば何とかなるだろうというイメージ、本当に町は町、自分らが町で・・、この町を何とかしていくという計画ではなっていないという意味でこれは業者が作った計画だなと私は思うわけです。本当に町の人たちの気持ちが反映された計画書ではないんじゃないかなと私は思うわけです。その辺はいかがですかね。

○企画観光課長（山本　公君）　人口ビジョンにおけるデータ分析なんかについては業者さんの方に依頼をしてやっている部分もあります。またまとめについては依頼している部分はありますけれども、先ほど来、町長が言っていますけれども、どこへもっていっても使えるという話ではなくて、そういうものも当然あるかと思うんですけれども、松崎の強みって何だろう、地域資源てなんだろうということの中で、例えば、先ほど言った産業の振興の中で、基幹産業である桜の葉っぱを振興していくということもやっていきましょうよということもありますし、なまこ壁ですとか、あるいは棚田、そういうものを活用したものを進めていきましょうよというようなことも入れてありますので、各地域によっては重複するものも当然あろうかと思うんですね。

ですけれども、松崎のできるものは何かという中で、ただいま申し上げたようなこと、あるいは温泉ですとか、海・山・川、資源を活用したものができるのではないかというようなことで、スポーツツーリズムですとか、健康保養地づくりみたいなこともメニューということで取り組んで入れてあるわけでございますので、それらにある資源を使って、人口減少に歯止めをかける、あるいは雇用の拡大を図っていくということをしてまいりたいと考えています。

○２番（渡辺文彦君）　だいぶ時間も迫ってきましたので、２つだけ確認したいと思います。松崎の今年の今回の予算の中で松崎ブランドに対する補助金が去年と変わっていません。おそらくこの松崎ブランドの補助金というのは、ふるさと納税にも繋がるものだと思うもので、ふるさと納税の目標額を3000万円なんていう数字でなくて１億位の数字になれば、この補助金も全く変わってきたのかなという気もするんですけれども、松崎ブランドに対する補助金はぼくの調べた限りでは・・、間違いだったらごめんなさいね。とりあえずゼロになっています。去年と同じです。

各種補助金、その中で、商工振興費に関して割と減が目立っています。こういう中で、本当に町の産業が活性化するのかどうか、この辺だけちょっと・・、もう時間がないですから、手短にお願いします。

○企画観光課長（山本　公君）　松崎ブランド品の補助金については、前年度と変わっておりません。これはブランド品を認定したり、あるいはＰＲをしたりというようなことで使っているものでございまして、特にふるさと納税の方とは直接的な関係はないお金ですけれども、ふるさと納税につきましてもいろいろ議論がございますけれども、2000万円くらいでしたかね。報告させていただいたものをより内容を増やす、充実させることによって地域内の産業の振興を図っていくことは続けていかなければなりませんので、そういう方向で今後働きかけをしていきたいと考えております。

あと、商工の関係です。俳句の町なんかの関係が若干減っている。大会を実施しないというようなことがあったりしておりますので、これはまた一般会計の予算の中での議論の中でご説明させていただきます。

補正予算の中で、また審議いただきますけれども、地方創生のお金をこれは申請中ですので、決定になりませんと実際のところは使えないわけですけれども、松崎銘菓というんですか、松崎にちなんだお菓子なんかを作りまして、観光的にも利用していきたいということで、そういう事業の予算も措置をしてございます。550万円の措置をしてございますので、その中で国の予算が付けば、進めてまいりたいと思います。

○２番（渡辺文彦君）　時間が本当に迫ってきましたので、最後にこの件に関して、ぼくは大胆な取り組みということで考えるならば、先ほど健康福祉課長が医療費を削減することによって町の財政くらいの金が浮くと言われました。それと同じように、町のエネルギーに関しても結構町からのエネルギーが外に出ていますよね。町内に留まっていません。そのエネルギーの自給なんかに対する取り組みも考えていってもいいのかなと私は思っています。このことは、慶応大学の金子勝先生もそういう指摘をしています。地方でエネルギーを置くことが必要じゃないかなということを指摘しています。この件はこれでとりあえず終わります。もう時間がなくなりますもので。

２点目なんですけれども、町長、副町長が退任されて、今後運営されていくわけですけれども、そういう中で、この地方創生に関わる事業だけでもかなり大変で、これで今の企画観光課だけでまかなえるのかなというのが正直な気持ちなんですね。そういう中で、また今まで地方創生を主体的に進めてくれた副町長がいなくなるということで、この機能が回るのか、町政がうまく回っていくのかどうか、その辺をちょっと、簡単で結構です。

○町長（齋藤文彦君）　新しい副町長が、佐藤副町長の後を引き継いでやってくれると思っています。

また、佐藤副町長も静岡県に入るわけで、向こうに帰るわけですけれども、こんなことを言うと怒られるかもしれませんけれども、松崎町の飛び地ができたみたいなもので、いろいろ農業関係とか何とかいろいろまたアドバイスをいただきながらやっていきたいなと思っているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　時間５分延長をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可します。

○２番（渡辺文彦君）　関連質問で副町長にお伺いしたいんですけれど、よろしいでしょうか。

○議長（稲葉昭宏君）　はい。

○２番（渡辺文彦君）　副町長にお伺いしたいんですけれど、２年間町の町政のためにご尽力をいただきまして大変ありがとうございます。その中で、松崎町が一番これはやらなければいけないんだというようなことがあると思うんですね。その辺をちょっと教えていただいて、またそれがどういう形で解決していったらいいのか、その辺のアドバイスをいただけたらいいかと思います。よろしくお願いいたします。

○副町長（佐藤　光君）　議員、どうもありがとうございました。

私が常々思っていて、今回の地方創生戦略の中にもある程度盛り込ませていただいたのは、

やはり町長からもお話がございましたように、松崎は歴史的にもモノづくりの町だと思っています。

ですので、モノづくりのやっぱり産業を一つもう一回再生するということが一つあるかと思います。もう一つは、やはり観光ということになりますと、モノづくりと・・、お金を稼ぐ手段としてはモノづくりとサービスになるかと思いますので、まず、このサービスというのは観光になってくると思いますけれども、それは、モノづかいという言葉を使わせていただいていますけれども、まちづかいと言いますか、要は、町の資源を使って観光を振興すると、そのためにはやっぱり町の魅力をもっともっとＰＲする必要があると思います。

ぼくは、松崎町に来ましてから、地域のブランド化ということをやっていきたいというふうに話をしましたけれども、そのブランドというのは、その時にも答弁させていただいたんですが、やはり信頼と知名度というふうにその時に私はお話をさせていただきました。信頼はごく限られたエリアの中には、非常に松崎はいいものがありますので、それはどこに行っても信頼性はあるのかなと思います。ですので、あとは知名度。

知名度がなかなかイマイチかなと思いますので、その知名度をやはりどうして高めていくかというようなことが一つ大きな課題かなと思います。

そういった中で、その知名度をアップする手っ取り早い方法はなんだろうというふうに考えた中で、いろんなところで連携をすることによって、その繋がる力をどんどん、どんどん広げていくことによって、そういった知名度が広がってくるんじゃないかなと思いますし、そういう繋がる中で、いろんな方からのお知恵も拝借できるし、その新しい知恵がいま眠っている資源を呼び覚ますみたいな、そういう構造ができればいいかなと思いまして、富士ゼロックスとの交流とか、あるいは常葉大学さんあるいは静岡大学さんとの交流を進めさせていただきました。

ですので、そういったものを基盤として今後もいろんな資源活用のモノづかいとモノづくりの形で産業に結び付けていければいいかなと思いますし、ぜひともそうしていただきたいなと思います。

その起点として、富士ゼロックスさんの「とうふや」を皆さんが情報とかモノが集まる集積地点にして、それを中心にして各地区に、地域おこし協力隊に地域に入っていただいて、地域資源を掘り起こす、磨き上げる、それを一つの産業に成長させていくというような形の構造ができていければいいかなと思いますので、そういったことを進めていただくと、産業という意味では、もう少し力強い基盤ができてくるんじゃないかなと思います。

議員がおっしゃるように、なかなか起業は厳しいと思います。非常にリスクも伴いますし、民間企業でも先行投資をしながら回収していくんですけれども、こういった社会変化が厳しい時代になかなか回収をすぐさまするというのは非常に難しいかと思いますけれども、至近の例で言えば、桑の皆さんが非常に熱心にいま新しい産業を・・、あれがいわゆる起業のモデルになるのかなと思いますけれども、ああいったことをやっていらっしゃいますので、可能性はあると思いますので、そういったものをモノづくりとモノづかいの部分でやっていければいいのかなと思います。

モノづかいの面は、ぼくがちょっと着目しているのは山の活用ということで、今、山が非常に疲へいしておりますので、山に人を呼び寄せるという意味でもマウンテンバイク等で、いま松本潤一郎君がマウンテンバイクのツーリズムをやっていただいて、非常にどんどん、どんどん入込客数も増えているということを聞いていますので、ああいったものを、山をいかすような・・、特に設備投資が必要というわけではなくて、昔使っていたものを再生するという形でできますので、ああいった新しいニューツーリズムみたいな形で展開するということで新しい松崎の魅力も情報発信できると思いますし、海からの観光も非常にジオパークも含めて新しい魅力としてあるかと思います。そういった自然資源をいかしたモノづかいあるいはモノづくりということを展開していくと、また一つ新しい産業が起きてくるのではないかと、可能性は非常に信じていますので、ぜひともそういったところで今後とも精力的に産業づくりをやっていただければと思っています。以上です。

○２番（渡辺文彦君）　大変いろいろないいアドバイスをありがとうございます。

最後に、まとめさせていただきたいと思います。いろいろ総合戦略を作られて大変だと思います。これをまた実行していくのが更に大変なことだと思います。

そういう中で、町長がいま主体的に牛原山の活性をもくろんで山崎さんを招へいしていろいろなグループワークをやっているわけですけれども、あの動きは町のおそらく将来に対してかなり大きな効果を及ぼすんじゃないかと私は期待しています。そういう意味では、あの選択は正しかったのかなと思っています。また結果が出るような形でまた進められていけばいいのかなと思います。

本当にこの町が元気になるには、行政ばかりではなくて、町民自身の中からもこういう町にしたいという意欲がないとなかなか進まないと思います。そういうところに対してもこれからも一層行政の方は支援をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。これで終わります。

○議長（稲葉昭宏君）　以上で渡辺文彦君の一般質問は終わります。

暫時休憩します。

（午後　２時５９分）